

IMAGINE
THE
FUTURE.

附属大塚 学校だより

本校は、世界最高水準の知的障害教育を目指します。

高等部第2次現場実習報告会 ～教室の窓から⑤～

先日、第2次現場実習報告会が行われました。高等部では、前期（6月）に2・3学年、後期（10月）に1・3学年が現場実習を行っています。様々な事業所で働く経験を通して、卒業後の将来について考える学習は、高等部教育課程の柱です。

報告会には小中学部の児童生徒や保護者も参加します。働く様子を動画で見た小学部児童は、格好いい先輩の姿に憧れを抱いている様子です。中学部では、事前に質問内容を考える学習を行っている学年もあります。先輩達がどのような事業所で働くのかを知ることで、今できることや将来に向けた心構えについて考え、高等部になった自分の姿をイメージしていきます。

今回の報告会は、初めて現場実習を経験した1年生が先輩と一緒に報告しました。何度も練習した成果を堂々と発表した1年生。緊張の連続だった職場体験から、事業所の反省会を受けて次の課題を見つける振り返り、自己評価と事業所の評価をすり合わせ、次の課題を考える事後学習、経験したことを通してこれからの目標を発表する報告会、一つの「働く経験」から、たくさんの「自分と向き合う」経験を積み重ねていきます。卒業後の進路はこうした実習を繰り返すことで、自分で進路を選択していきます。教師は、本人の働く様子と、事業所が求める仕事のスキルなどから卒業後の成長を見通し、個々の適正を判断していきます。そのなかで「本人の願い」の実現に向け、精一杯進路の選択から決定までを支えています。

現場実習は、前後期に設定されていますが、3年生は、卒業後の進路が決定するまで「面接」「実習」「反省会」を繰り返します。先日、某区で行われた研修会で、全国の知的障害者における1年以上の仕事定着率は68%と聞きました。離職の原因は、人間関係とジョブマッチングの課題がほとんどだそうです。事業所内での人との関係を維持することと、自分にあった仕事選びをすることがとても重要だということでした。

本校では、「本人の願い」を育てる教育を行っています。ここでは、「将来の夢」や「自分はどんな仕事が見たいのか」だけでなく、得意なことと同時に苦手なことも考え、「自分にできることは何か」について考えることが大切です。その上で「チャレンジしたいこと」を自ら決め、自信をもってその目標に向かってほしいと思います。そうすればきっと「自分らしい生き方」が見つかると思います。



初めての現場実習を経験した1年生。とても緊張した様子が伝わってきました。



人前で発表することが苦手なAさんですが、ICTツールを活用して堂々と発表しました。



事前に考えた質問をする中学部3年生。先輩達から「働く」ことについて学びます。

中学部陸上大会の報告 ～ 教室の窓から⑥「向かう力」を育てる経験 ～

10月25日（木）駒沢オリンピック公園競技場で開催された第62回東京都特別支援学校・特別支援学級設置学校総合体育大会に中学部が出場し、生徒全員がこれまでの練習成果を発揮しました。大きな競技場のスタートラインは、校庭と違う緊張感があります。初めて出会う他校の中学生と列を組み、周囲の期待を肌で感じながら合図を待ちます。緊張感のある環境では、いつもの力を発揮できないことがあります。しかし、そんな環境の中で目標に向かう経験が自分を大きく成長させてくれます。

本校は、子ども達の多様な生活経験を大切にしている教育を行っています。知的障害のある子どもたちは、たくさんの経験を通して知識やスキルを学びます。そして、習得した知識やスキルをその後の学習場面、さらには実際の生活場面の中で活用する経験を積み重ねていきます。様々な成功と失敗の経験が、自信となり、さらにその先の目標に向かう力が育まれていきます。

運動会では電子ホイッスルを使用しますが、大会は雷管が合図です。



1年生は初めての大会でした。来年、再来年の記録が楽しみです。



表彰台に昇り、賞状を受け取る瞬間は、新しい目標に向かう動機が育ちます。



目標は、身近なところでも掲げることができます。小学部段階では、「係りの仕事を頑張ります!」、「プリントで〇がもらえるように頑張ります!」、「家のお手伝いを頑張ります!」、そんな小さな目標でも子ども達の「向かう力」を育てることができます。一方で幼稚部段階では、様々な興味・関心を育て、夢中になって「ヒト・モノ・コト」に向かう気持ちを育てることが将来の「目標に向かう力」を支えていきます。お子様が「やってみたい」と思えること、何かに夢中になれることをたくさん見つけられるように、多様な経験を本校では考えています。

こうして育まれた「向かう力」は、高い動機に支えられた豊かな生活経験を通して、「現在」と「未来」について自らが「願う」こと、さらには「将来の自分の姿」について考えることに繋がると考えます。



「遊ぶコトに向かう」幼稚部幼児。お芋掘りごっこ遊びに夢中です。



「絵を描くコトに向かう」小学部児童。真剣な表情で色を塗っています。



「タイルを並べるコトに向かう」中学部生徒。集中して製品に向かいます。

PTA研修会報告～障がい者雇用の現場から

10月30日（水）PTA主催「進路に関する学習会（講演会）」が行われました。今回は、株式会社リゾートトラスト東京人事総務部事務支援課長（東京事務支援センター長兼務）の北沢健様をお招きしました。北沢様からは、事業所の紹介をはじめ、これからの共生社会における民間企業やリゾートトラストが目指すこと、さらには就労に向けて在学中に身につけておきたいことなどについてお話しいただきました。

法定雇用率未達成による行政指導の経験から始まった障害者雇用促進への取り組みは大変興味深く、多くの大規模企業が特例子会社を設立する中、「共に働ける職場づくり」にこだわった会社経営は、これからの共生社会になくてはならない「障害のあるないに関わらず個人の多様性を尊重した組織づくり」のモデルと言えます。ご自身のお父様が本校の教員経験があること（戦後の障害者教育を牽引してきた北沢清司先生）や、障害のあるご兄弟を支えている現在の話題にも触れられ、そのお話しの全てがとても心に響くものでした。

北沢様は、学校で身につけてほしいこととして、「時間を守ることや、身だしなみなど」の労働習慣の獲得を基盤に、「自分に何があるのか、できるのか」といった自己分析ができること。「就職先を自分で決める」自己解決能力の向上。「やってみたいと思うことをやってみる」ことで得られる成功体験の積み上げ。「働くことの楽しさ、やりがい」などの就労意欲の向上。就労は「ゴールではなくスタート」という意識を持つことだそうです。

幼稚部小学部の保護者の皆さんが卒業後のイメージを持つことは難しいかもしれません。しかし、教師も含め、学校卒業後の生活の場（働く場）や地域の支援体制を知り、将来のお子さんの姿を想像できなければ、子ども達はそれ以上に何も見通すことができません。今回の研修会に参加できなかった方は、卒業後の進路選択に向けた高等部の取り組みや地域の情報を積極的に収集してください。

研究成果の発信について

研究成果の発信を教育憲章に掲げる本校では、毎年9月に開催される「日本特殊教育学会」で発表することを一つの目標としています。大阪で行われた今年の学会でも、ポスター発表や自主シンポジウムの企画、話題提供を通して、全国の研究者や実践者と情報交換を行いました。附属大塚のエントリー数は全国の特別支援学校の中で最も多い21件でした。4月には生田茂先生（大妻女子大）との共同研究（ICT機器教材開発）を英語版で刊行しました。関心のある方はお声掛けください。

11月の予定



1日（木）児童生徒入学選考願書受付開始
発育測定（幼小）

2日（金）保護者会 集金日 13:30下校

3日（土）文化の日

5日（月）放課後支援（桐親会）

6日（火）劇団交流（高）

発育測定スマイル（中）

児童生徒入学選考願書受付開始

7日（水）保護者会（幼）

発育測定スマイル（高）

「ライフキャリア学習」（高）

1班：老人ホーム「洛和ヴィラ文京春日」出張カフェ

9日（金）附属坂戸高校交流（高：坂戸）

13日（火）大塚祭予行練習

附属坂戸高校交流（高：本校）

17日（土）大塚祭

19日（月）振替休日

20日（火）「英会話」（中）ALT

21日（水）にこにこ広場（11）

附属小学校交流（本校）

「ライフキャリア学習」（高）

1班：東京キャンパス（教室清掃，図書館業務補助）

22日（木）避難訓練（地震・火災）

23日（金）勤労感謝の日

26日（月）PTA土曜放課後活動（調理）

27日（火）「ライフキャリア学習」（高）

1班：老人ホーム「洛和ヴィラ文京春日」出張カフェ

28日（水）ライフキャリア学習（高）

1班：東京キャンパス（教室清掃，図書館業務補助）

29日（木）後楽幼稚園交流（幼）

「校外作業学習」（中）

サービス班：マクドナルド実習

30日（金）お楽しみ会（幼）

校外学習⑤（中：合同生活）



次号の予告：教室の窓から⑥～「褒めること」と「認めること」～「評価の支えられた主体性」、トピック「学習指導要領改訂」から「学びに向かう力」を育てるってどういうこと？などなど